

**Citation:** Hayashi M, Yeung CA. Ceramic inlays for restoring posterior teeth. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2003, Issue 1. Art. No.: CD003054. DOI: 10.1002/14651858.CD003450

**CRG名:** Oral Health

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 1 November 2002

**Clib issue No.;** N/U: 2008 issue 1;-

**背景:** 臼歯にも歯冠色材料での修復を希望する患者が増えており、セラミックインレー修復が行われるようになってきた。セラミックインレーは優れた外観を呈するものの、長期臨床研究に関しては限られた報告しかなく、その長期予後は明らかではない。

**目的:** 臼歯のセラミックインレー修復の臨床有用性を他の臼歯修復と比較する。

**検索戦略:** データベース検索として、Cochrane Oral Health Group Trials Register, Cochrane Central Register of Controlled Trials(コクラン・ライブラリ、2002年1号)、および1990年から2001年までのMEDLINEとEMBASEを対象とした。ハンドサーチは、関連雑誌とすべての関連論文と論説の参考文献を対象に、1990年から2001年まで実施した。さらに、その他に行われた臨床研究および出版されていないデータを探すためや、不明瞭な記載や欠落したデータを明らかにするために、セラミック修復に関する臨床研究を実施している専門家や企業に連絡した。

**選択基準:** セラミックインレーの成功率を他の臼歯修復と比べたランダム化比較試験。

**データ収集と分析:** 採択の可能性のある研究のスクリーニングとデータの抽出は、2人のレビューア(MHとAY)が独立して特製のデータシートで行った。採択研究の著者には、さらなる情報を求めて連絡した。臨床研究法の質は個々の要素について正副2通で評価した。Cochrane Oral Health Groupの統計ガイドラインに基づいて、2値的アウトカムはオッズ比(OR)と95%信頼区間で表した。

**主な結果:** 2研究が本レビューへの選択条件を満たしていた。しかし、そのうちの1つは研究デザインが明確に記載されていなかったため、後に除外した。他方の採択した研究は、60のセラミックインレーと20のゴールドインレーの5年成績を比較したものであった。60のセラミックインレーのうち7症例と、20のゴールドインレーのうち2症例が5年観察時に失敗と判定されていた。セラミックインレーでは術後疼痛あるいは不快症状を示す症例はなかったが、ゴールドインレーでは1症例で認めた。セラミックインレーとゴールドインレーの成功率と術後疼痛あるいは不快症状に関する重要な違いを検出するには、採択した1研究のみでは十分ではなかった。

**レビューアの結論:** セラミックインレーと他の臼歯修復の臨床におけるちがいを示すような強いエビデンスはなかった。この分野では優れたデザインの臨床研究が少ない。セラミック修復に関する臨床研究では、研究デザインおよび記述の質を向上させることを強く認識しなければならない。

(翻訳 林美加子・監訳 豊島義博; JCOHR)

翻訳公開日: 08年4月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。